

福祉サービス第三者評価

〔令和7年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ田端新町保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む ▪ 心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む ▪ みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む <p>（方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 豊かな人間性を持った子どもを育成する。 ▪ 心と身体の自立を促し、生きる力をつける。 ▪ 自分の思いを素直に表現できる子どもを育む。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 子ども一人一人に平等で、深い愛情を持ち日々接することのできる人材 ▪ 子どもの発達段階を理解し、状況に応じて適切な援助や保育ができる人材 ▪ 危機管理能力を持ち、常に安全への配慮を欠かせない人材 ▪ 保護者との信頼関係を大切にし、子どもにとって最善の保育を追及できる人材 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 向上心を持ち、研修等への意欲的な参加で保育力向上への努力を惜しまない姿勢 ▪ 乳幼児期の人間形成に重要な時期に携わっている自覚と責任感 ▪ 子ども主体の保育の実現

調査対象

保育園に通っている園児11世帯11人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数

11

利用者家族総数(世帯)

11

共通評価項目による調査対象者数

11

共通評価項目による調査の有効回答者数

9

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

81.8

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」100.0%、「満足」.0%の計100.0%であった。

自由意見では、「担任以外の先生も関わってくださるので、子どもにとって保育園の安心感がより深まったのを感じます。」「先生たちが親切です。仕事が終わった後にアプリの連絡帳を見るのがいつも楽しみです。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が多く寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもの保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中15問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「成長に合わせた遊びや活動、食事や手洗い、トイレなどの生活を保育園で丁寧に見ていただき、毎日の成長を感じており感謝しています」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「子どもの興味に合わせたおもちゃを用意してくれていて助かっています。引っ張る動作が好きで家でコンセントを引っ張られては止めに入って子供が不満そうにしていたが、紐の手作りおもちゃを園で用意してくれたのを見て嬉しかったです」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「栄養のバランス、たくさんの食材や調理方法、自宅では用意できないおやつなど月齢に合わせて準備いただいています」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「親切に柔軟に対応いただいています」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「担任の先生をはじめ、他の先生もよくコミュニケーションを取っていただけるのがうれしいです。複数の視点での意見があることで安心できます」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「都度連絡くださるので、信頼できます」「細かい怪我も逐一共有していただけてありがたいです」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	2	0	0
「はい」の回答は77.8%、「どちらともいえない」の回答は22.2%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	8	0	0	1
「はい」の回答は88.9%、「無回答・非該当」の回答は11.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「毎日の活動報告、成長やできるようになったこと、家での様子へのコメントなどとても丁寧で、毎日連絡帳の確認が楽しみです」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	3	0	0
「はい」の回答は66.7%、「どちらともいえない」の回答は33.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ-1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
	確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	
	確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
	確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ-1の講評			
<p>園の情報は、ホームページやSNSなどで幅広く発信されている</p> <p>園のホームページには、系列園と共通する保育理念や保育の特色、給食への思いなどのほか、地域の子育て家庭を対象とする月極保育や一時保育、延長保育の案内など、園に関わる情報が詳しく掲載されている。園の道沿いの壁面や区役所、児童室、図書館といった公共の施設にチラシやポスターを設置している。また、子育て世代が多く利用する施設やSNSにチラシ等を設置することで、園に足を運ばなくても情報を得ることができるようにしている。</p> <p>近隣の関連施設に情報を提供し、地域貢献活動に力をいれている</p> <p>地域の子育て家庭が利用しやすい子育て広場や児童館、図書館などの近隣施設に子育て支援ポスターを持参し、掲示を依頼している。保育所体験を実施し、具体的な活動として子どもと一緒に主活動に参加してもらうことや、食育イベントへの参加などに取り組んでいる。また、給食試食会や手作りおもちゃ体験会、親子ふれあい体操を開催し、子育て支援と共に園保育を知ってもらう機会としている。外国籍の人も想定し翻訳機も用意している。</p> <p>個別の事情に考慮した見学対応を心がけ、園の様子を丁寧に伝えている</p> <p>見学希望の際には日時や時間を確認し、可能な限り要望に応じるようにしている。要望の無い場合には、保育時間の主活動を見てもらえるように10時頃から実施している。見学と同時に保育参加や育児相談のご提案をし、より園の雰囲気を知ってもらえる案内をしている。見学の際には、園の保育方針とともに、力を入れている保育内容、小規模保育園ならではの個別保育、保護者とのコミュニケーションを大切にしていること、保護者負担を減らすために準備する持ちものが少ない点・おむつのサブスクを導入している点などを伝えている。</p>			

サブカテゴリ2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ2の講評			
<p>入園にあたり園のしおりをもとに入園説明会を行い重要事項の説明をして同意を得ている 入園にあたり園のしおりをもとに入園説明が行われている。同時に一人一人の個人面談を実施して家庭での様子や子どもの体調や既往歴等を把握し児童票・緊急連絡カード・新入園時面接表に記載し、保護者との確認と職員間での共有を行っている。入園説明会では重要事項の確認と個人情報保護について確認し、保護者の同意のサインを受けている。園に対する保護者の要望や希望を聞きできるだけ対応していけるように努めている。同時に保護者の入園後の不安や保育内容については丁寧に説明をして必要に応じて相談に応じている。</p> <p>2週間を目安に慣らし保育を実施し不安なく保育園に慣れるように努めている 2週間を目安に慣らし保育を実施し、保護者と子どもが不安なく保育園に慣れるように努めている。育児休業中の保護者もあり就労状況に応じて日程の調整をして対応している。離乳食や食事の様子、ミルクや授乳については一人一人の子どもの状況に応じて対応している。お迎え時に保護者の家庭での様子を聞いて、必要に応じて保護者に授乳してもらったり、食事を与えてもらうことで家庭での差が無いようにまた保護者と一緒に保育が進めていけるように配慮がされている。誕生日会で離乳食や給食を試食してもらうなど保護者と子育ての共有が図られている。</p> <p>2歳児までの小規模保育園として、保護者が不安なく転園できるように配慮している 2歳児クラスまでの小規模園として、転園については保護者には保護者会等で丁寧に説明している。小規模認可保育園に関しては転園に際しては加点の措置が取られているが、卒園の保護者には次年度の保育利用案内を渡し、不安なく転園できるように配慮している。保護者には入園時から転園については理解されているため、小規模保育園としての良さを様々な機会に説明をすることで、安心して0～2歳児まで園生活が送れるように保護者とのコミュニケーションを大切にしている。</p>			

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	
確認済み	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	
サブカテゴリー3の講評		
<p> 全体的な計画・年間指導計画・月案・週日案・個別計画を作成し評価反省を行っている 全体的計画を基に年間指導計画と月案、週日案を作成している。前の週に週日案を立て、子どもの状況に応じて内容の修正を行い、評価・反省をして職員間で共有している。月案には保護者対応を記載し、毎日の保育日誌に活動内容や子どもの姿を記載し子どもの状態の推移については毎月、月末に個別計画に評価や反省を記録している。0～2歳児クラス全員個別計画をクラス担任が作成し園長・主任の確認のもとで保育にあたっている。個別計画は一人一人の成長を把握し無理のない内容保育のねらいを作成し子どもの負担にならないように配慮している。 </p> <p> 一人一人の子どもの成長発達について保護者に送迎時や懇談会等で説明し共有している 一人一人の成長発達の状況と個別の保育のねらいについては保護者に送迎時のコミュニケーション、懇談会、個人面談時に伝えている。食事や離乳食の提供の内容やトイレトレーニングなどは開始前に保護者に家庭での進行状況や希望を聞き、無理なく進められるように配慮して。園だよりや連絡帳を活用して一人一人の子どもの状況を伝え家庭と子育てができるように努めている。 </p> <p> 発達記録で子どもの月齢に応じた発達の目安をチェックし個々の発達段階を把握している 発達記録で子どもの月齢に応じた発達の目安のチェックを行い一人一人の発達段階を把握し職員で共有している。個別で配慮が必要な場合は食事の進み具合については毎月の職員会議や給食会議で周知されている。一人一人の発達状況については日々の保育日誌や週日案等で子どもの様子を確認し保育のあり方について園長・主任を中心に職員会議で話し合いが行われている。非常勤の職員には朝礼簿やクラス担任から伝え、全職員で共有して保育が実施されている。 </p>		

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>個人情報保護に関する説明をして保護者の同意書を得ている</p> <p>入園時に写真販売やSNSへの写真掲載について承諾書を提出してもらい、個人情報保護の説明をして保護者に同意書を得ている。子どもの羞恥心に配慮するため着替えやおむつ交換トイレなどについて外部から見えないようにカーテンや衝立などを活用し配慮している。また排せつなどは時間をずらすなど可能な限りプライバシーの保護に努めている。</p> <p>一人一人を大切にしたい保育を目指し好きな遊びや玩具を楽しめるように保育を進めている</p> <p>様々な遊びを提供し、好きな遊びを選択し楽しめるように保育を進めている。文化の違いで宗教上クリスマス会やハロウィン会に参加できない子どもがある場合は無理強いをせずに対応している。保護者の価値観や生活上の習慣などについてはできる限り尊重して保育にあたる。また保育士の自己チェック表を活用し保育のあり方について職員会議で話し合う機会を設けている。虐待が疑われる場合や養育困難な家庭が見られた場合は、関係機関と連携し対応している。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種マニュアルを整え、職員が日常的に活用することで業務の標準化を図っている</p> <p>園は日常的に行う業務や必要な対応の標準化を図るために怪我対応マニュアル、避難訓練、不審者訓練マニュアル・水遊びマニュアル・感染症対応マニュアル・早番、遅番マニュアル・掃除マニュアル・嘔吐対応マニュアル・食物アレルギー対応マニュアルなど各種マニュアルを整備している。マニュアルはいつでも見られる場所に保管し、職員がわからないことが起きた際や業務点検の手段として活用できるようにしている。嘔吐処理や掃除マニュアルなどは、保育者が閲覧できる見やすい場所に掲示し、業務の標準化を図っている。</p> <p>サービスの向上をめざし基本事項や手順、業務内容を定期的に点検し見直しを行っている</p> <p>年に2回運営委員会を行い事業者と代表保護者、外部委員(社会福祉事業について知識経験を有する)と共に提供しているサービス内容や園の運営、基本事項などについて確認し、意見を出し合い点検・見直しを行っている。各種手順書、マニュアルは年度末に職員間で確認手順や内容の見直しが図られている。保護者がいつでも園に意見を伝えられるよう園の入り口に意見箱を設置している。毎年、全保護者にアンケートを実施し園運営や保育内容、意見・要望などについて、保護者の意向や意見を把握し園運営に反映させることでサービス向上につなげている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>子ども一人一人の発達状況に合わせて食事形態や遊びの環境を工夫している</p> <p>子どもの成長発達に合わせて食事の形態を変えたり、マナーが身につくように食具の扱い方など援助の仕方を工夫している。子どもの発達に合わせた手作り玩具を提供し、子どもが自分で選択し主体的に遊べるように取り出しやすい玩具棚など環境を整えている。手作り玩具はおもちゃインストラクターの資格を持つ職員のアドバイスで指先を使った遊びや色彩や音を楽しむ遊びができる遊具を通して、子どもの成長発達が促されるように工夫されている。子ども自身が主体的に行動することで自発的に行動でき、安心感から愛着関係が築かれている。</p> <p>配慮が必要な子どもに対して援助の仕方や指導計画等の作成、マニュアルを進めている</p> <p>現在、特に配慮が必要な子どもは在籍していないが、過去の事例としては絵カードや療育施設主催の研修に参加し適切な援助方法を身につける機会を設けている。クラス内で気になる状況が見られる場合は療育機関や嘱託医等に相談しアドバイスをもらっている。また保育の進め方内容については園長、主任のアドバイスをもとにクラス担任を中心に職員会議や給食会議で話し合いを持ち保育を進めている。</p> <p>異年齢や世代間交流、異文化について学んだり、実践する機会が設けられている</p> <p>他クラスと合同で散歩に出かけたり、室内遊びを楽しむなど異年齢児との関わりを多く取り入れ保育を進めている。外国人講師を招き英語遊びの時間を設け、他国の文化に接する機会が作られている。年2回福祉施設(老人ホームなど)との交流を持ち、手作りプレゼントを渡したり、保育参加や歌の披露などを実施し、世代間交流を大切に保育が計画されている。</p>				

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		
評価項目2の講評			
<p>保護者との面接を基に家庭での状況を大切にしつつ園での生活リズムの確立に努めている</p> <p>入園時の面談で一人一人の生活リズムを聞き、把握することで園での睡眠やミルクの時間に配慮している。徐々に園での生活リズムが確立していくように家庭と協力して進めている。日頃の保育の中でトイレトレーニングや食事の際に食具の使い方などが身につくように成長発達に合わせ、子どもが興味をもって取り組めるように保育を進めている。午睡については家庭での状況を考慮しつつ、午前寝をすることもあり、子ども様子については連絡帳や送迎時の会話で保護者に丁寧に伝え、家庭との連携を図っている。</p> <p>家庭での様子を登園時に把握し職員間で伝達共有して日中の保育を進めている</p> <p>登園時に子どもの体調・睡眠・食事量など家庭での様子を把握し個別に対応することで日中の保育が進められている。体調が思わしくない場合は安静に過ごせる室内活動に変更している。職員間では伝達ボードに記録し情報交換している。保護者には連絡帳アプリを活用し一人一人の様子を伝えるだけでなくお迎え時に職員がその日の様子を個別に伝えて、家庭と連携し、子どもの生活リズムが24時間を通して整えられるように配慮している。年齢発達に応じた生活習慣の確立については保護者懇談会で伝えたり、保育参加や園だよりで保護者に説明している。</p>			

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
<p>子どもたちが主体的に遊び、また遊び込める環境づくりに努めている</p> <p>子どもが目で見えて自分で遊びを選択できる玩具棚を設置したり床に敷くマットの場所や大きさを変えたり、ベンチ等を用意して子どもが好きな遊びに集中できるように工夫している。子どもの集中力や判断力が育ち一人一人の好きなことや嫌いな気持ち、興味があることなどを大切に考える力や判断力、好奇心が育つように保育環境を常に変化発展できるように取り組んでいる。子どもとの愛着関係を育てるために、発語前の0～1歳児には子ども自身の気持ちを汲み取り、保育者が温かい言葉で積極的に関わりをもつことを保育の中で大切にしている。</p> <p>各年齢に応じた手作り玩具を取り入れ、指先を使う遊びや運動機能の発達が促されている</p> <p>各年齢に応じた手作り玩具を保育に取り入れることで、指先を使う遊びや運動機能の発達を促す遊びが展開されている。手作り玩具が持つ色や感触、また玩具を使つての表現など遊びが発展できるように保育が工夫されている。また歌や楽器、リズム、お絵描き、制作など表現活動を体験できる環境が整えられている。子どもが自分の好きな表現ができるように、玩具・場所・空間などについて保育者同士で話し合い工夫をして保育を進めている。</p> <p>散歩を通して季節の変化や自然物に接し戸外で遊ぶ体験を大切に保育に取り組んでいる</p> <p>散歩に出かける時は季節の変化や草花、木の実、虫などの自然物に興味を持てるように声掛けして取り組んでいる。木々の葉っぱの色や量、花などの変化に子どもたちが興味を持てるように保育の中に取り入れている。散歩先では公園の遊具で遊んだり、走ったりして体を動かして遊ぶことで体づくりにつなげている。春・秋・冬は週3回は散歩に出かけ、夏はテラスでの水遊びをすることで戸外活動の充実に努めている。散歩が多いことは保護者からも満足していることがアンケートでも伺える。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p>子どもの発達に合わせて伝統行事を楽しめるように保育に取り入れている</p> <p>七夕・ハロウィン・お月見、クリスマス・節分・ひなまつりなどの伝統行事については子どもたちが楽しむことを目的に負担のないように保育に取り入れている。季節に合わせた行事では壁面や置物などを活用し行事に向けての雰囲気作りと子どもたちが期待できるように工夫している。食育活動では食材に親しみ、食を楽しむことを目的にお月見団子やクッキー作りを行っている。行事の様子は連絡帳や降園時の会話、写真等で保護者に伝えている。</p> <p>保護者が参加する行事としてスイカ割りを実施し年齢に応じた楽しみや目的を伝えている</p> <p>発表会などは保護者の期待はあるが、子どもにとって負担なくできる行事を親子で楽しむことを目的にスイカ割りや秋祭りを実施している。年齢や発達に合わせた行事のあり方について職員間で討議検討し中止にした行事もあり、保護者に説明し理解が得られている。またクリスマスやハロウィンなど文化の違いなどについては日程や内容について検討し、子どもたちが無理なく楽しめる企画が工夫されている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評		
<p>延長保育については全体的な計画の中に記載し保育全体に配慮された計画になっている</p> <p>日中の子どもの様子は連絡帳で伝えると同時に降園時に口頭で保護者とコミュニケーションをとり不安なくお迎えができるように配慮している。職員全員が全体の子ども状況を把握できるようにクラス間の連携と伝達ボードを活用した取り組みが行われている。</p> <p>延長保育時間は子どもの希望を聞き、延長保育用の玩具や空間が用意されている</p> <p>延長保育時間における保育は、一人一人の関わりを大切にしふれあいあそびや好きな遊びや玩具を用意して、落ち着いてくつろげる保育を実施している。遊びや玩具については毎日、違う内容を用意することで、子どもたちが、楽しみと期待が持てるような保育が実施されている。延長時間に授乳等が入る場合は、クラス担任との申し送りや連携を密にして、誤飲等が起こらないように配慮している。保護者には子どもの状況を詳細に伝え家庭との連携を図っている。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
確認済み	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	
評価項目6の講評		
<p>食育活動を勧め、食材本来の味や出汁の味を活かした給食を提供している</p> <p>食育活動を推進して野菜の栽培・収穫から食材との触れ合いとしてトウモロコシの皮むき、野菜洗い、きのこちぎり、調理(お月見団子やクッキーづくり)を行い様々体験を通して食への関心を高めている。昨年はお米づくりに挑戦している。食材本来の味や出汁の味を大切に給食を提供している。行事食については行事に関する食材や見た目でも行事を感じられる献立にして、子どもたちが食について興味や楽しみが持てるよう取り組みが進められている。</p> <p>保護者が給食を食べる機会や地域の親子が給食試食会に参加する機会が実施されている</p> <p>保護者が誕生日会に参加し一緒に給食を食べる機会を設けたり、地域の子育て中の親子が離乳食や給食試食会に参加するなど、保護者を始め地域住民への食育活動の発信に努めている。地域に野菜栽培や収穫する環境はないが、栄養士と保育士が食育計画を立て、調理前の野菜に触れたり、プランター栽培などを通して子どもたちだけでなく、保護者や地域への発信を続け、期待と好評が得られている。</p> <p>子どもが楽しく食事できるように友だちや保育者と一緒に少人数で食事が進められている</p> <p>子どもたちが楽しく、前向きな気持ちが芽生えることを大切にして、各クラスで少人数で食事が進められている。子どもの成長や発達に合わせて形態や味付けに配慮している。体調に合わせた量や形態が常に考えられている。またアレルギーのある子どもや文化の違いによる配慮食は保護者の確認の上で提供している。食物アレルギーの場合は医師の指示書を基に実施し、離乳食は段階ごとに保護者の確認と家庭での状況に応じて子どもに無理のないように配慮して実施している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	

評価項目7の講評

子どもたちに手洗いや消毒、衛生にの大切さと怪我防止を伝えている
 食事前や遊びの後の手洗いの仕方を教え、衛生について具体的な仕方を伝えている。怪我の防止のために危険な場所に入ったり、登ったりすることの危険性について言葉や声、身振りや手振りを使って分かりやすく伝えている。怪我の予防のために健康な体づくりや体の使い方がわかるように戸外遊びをたくさん取り入れ、予防に努めている。保護者にはおたよりや送迎時のコミュニケーションを通して家庭での健康管理について伝えている。

SIDSの予防のために睡眠チェックを行い、保育者の見守りを常に行っている

SIDSについては月齢的に午前寝もあるため、常に保育士が見回り睡眠チェックを行っている。うつ伏せや横向きになる可能性がある場合は仰向けにしている。保護者には入園時の面談でSIDSについて伝え、家庭でも注意するように伝えている。当園は看護師が常駐していないため嘱託医と連携し、年2回の健康診断を始め、感染症やアレルギー、熱性けいれんの対応など緊急時の対応についてアドバイスを受けると共に職員間でも研修を重ね、注意が払われている。保護者にも感染症については情報提供している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	

評価項目8の講評

園として「第二の家庭」を目指し保護者とのコミュニケーションを大切にしている

園の特色として「第二の家庭」を目指し、子どもたちだけでなく保護者とのコミュニケーションを大切に共育に努めている。日々の子どもの様子を直接会話で伝えながら、保護者の子育ての悩みや相談に対応している。毎年保護者アンケートを実施、意見や感想を聞き、改善策などを職員間で話し合っている。保護者会や個人面談、保育参加などを通して、子どもの姿と同時に保育園に対して理解が深まるように努めている。保護者の悩みには時に専門機関につなぐこともあり、利用者アンケートにも見られるように、信頼関係は深められている。

誕生日会の給食体験、保育参加、スイカ割りなど保護者参加行事を通して理解を深めている

保育園での子どもの姿を知ってもらうために、誕生日会の保育参加と給食体験、年間を通しての保育参加、スイカ割り、秋祭りなどの園行事に参加することで保育園に対する理解が深められている。保護者会では年齢に応じた遊びや生活のあり方などについて話し合いがされ、保護者同士の交流の場になっている。園の特色である手作り玩具の紹介や親子で体操や制作活動などを楽しむ機会が設けられている。年齢に応じた親子の関わりを大切にしている行事が行われている。

連絡帳をICT化し緊急時のお知らせやおたよりをアプリで配信している

SNS(Facebook・Instagram)で保育の様子を保護者に伝えることで、子どもの姿や保育の様子が分かりやすく伝えられている。保育園の様子を知る手立てになっている。連絡帳やおたよりをアプリにすることで、保護者の保育に対する理解が深められている。同時に送迎時の会話を通してのコミュニケーションを大事にすることで、保護者の安心感につながっている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>地域支援として保育所体験、手作りおもちゃ体験、親子ふれあい体操などを実施している</p> <p>地域子育て支援事業として、保育所体験(保育の参加、給食の試食会、食育活動野参加など)や手作りおもちゃ体験会、親子ふれあい体操などを企画し進めている。手づくりおもちゃ体験会は年3回開催して1回に2~3組の参加がある。親子ふれあい体操は小さい子どもができるヨガを取り入れた体操で、地域の親子の関心と楽しみになっている。保育所体験は給食の試食もあることで大勢に参加希望がでている。参加時に子育てについて相談されることも多く、妊娠中の保護者の方の参加もあり、地域に根ざした活動になっている。</p> <p>地域の福祉施設と交流しプレゼントや体操、歌の披露など世代間交流ができています</p> <p>地域の福祉施設との交流会を持ち、プレゼントを手渡したり、体操参加や子どもたちの歌の披露などを行い、世代間交流ができています。また児童館や図書館を利用することも多く子どもたちが様々な場所に出向き多くの体験ができる機会を設けている。消防署見学など地域の方から保育園についての理解や地域から見守られ、安心・安全な体制作りに努めている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1	評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2	評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3	評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認済み	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>苦情解決制度の周知を図り、保護者の意向を把握し対応する仕組みを作っている</p> <p>園は入園前面接時に重要事項説明書を用いて、保育に関する相談・要望・苦情などに迅速に対応するための苦情解決制度について説明している。苦情対応の要綱には、苦情受け付け窓口や第三者委員を明示している。また、苦情解決責任者などを園玄関に掲示し、保護者の周知を図っている。さらに、いつでも意見が出せるよう意見箱を設置し、毎年、全保護者を対象にアンケートを行い、保護者の意見・意向を把握し組織的に対応する仕組みを作っている。</p> <p>様々な取組を行い、虐待に対しての組織的な防止対策に取り組んでいる</p> <p>法人では利用者を傷つけるような言動がないよう、職員が自身を振り返り保育園職員としての姿勢に立ち返るために「Mission Vision Value」を作成し、行動規範を明記している。この行動規範は入社時に必ず説明が行われており、園内に掲示し常に意識するように努めている。また、毎月の職員会議で保育の自己評価の確認を行い、不適切保育に当たる言動や行動をしていないか確認している。不自然な怪我やネグレクトの疑いなど気になる姿が見られる際には、虐待チェックシートの記入・記録をし、関係機関と連携する体制を整えている。</p> <p>考えられるリスクを洗い出し、マニュアル作成や訓練などを行い、対策を講じている</p> <p>園は、事故や感染症、不審者、災害に関してマニュアルの作成及び訓練を定期的実施している。事故発生時には事故報告書を作成し、全職員で情報共有を行うとともに、再発防止策を話し合っている。災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している。災害時の対応については、保護者に入園前面接にて説明し、毎年引渡し訓練も実施している。地震や火災の発生、不審者遭遇など園内外で想定される災害や侵入に対応するため毎月訓練内容を定め、年間防災訓練計画・年間不審者訓練計画をもとに訓練を行っている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	発達段階に合わせた手作り玩具を保育に取り入れ運動能力等の発達を促している	
内容①	当園は手作りおもちゃの充実をテーマに子どもの発達段階に合わせた手作り玩具の制作を行っている。手作りおもちゃインストラクターの資格を持つ職員を中心に各クラスで手指や全身の体の働きを促す玩具が工夫されている。子どもの発達を視野に入れた玩具を保育に取り入れることで脳を刺激したり、思考力や言語力、記憶力、運動能力の成長発達につなげている。手作り玩具は保育参観や懇談会でも紹介され保護者からも共感されている。また地域の子育て支援活動として「手作りおもちゃ体験会」を実施し子育て中の親子が保育園を知るきっかけになっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	子どもの生活の幅を広げ社会性を育てるために地域支援活動の充実に努めている	
内容②	当園は2歳児までの小規模園であるが、小さい時から様々な人たちとの関わりを経験し愛情をもって接していくことの大切さや地域からも園を知り、子どもたちを見守り安心・安全な環境の体制づくりに努めている。近隣の老人福祉施設を定期的に訪問し手作りプレゼントを手渡したり、体操参加や歌の披露など2歳児クラスの子どもたちができる交流が行われ、高齢者の方から喜ばれている。また消防署見学や図書館、児童館の利用など様々な場所に出向くことで子どもたちが多くの体験ができ、挨拶などを通して地域との関わりを深める取り組みが進められている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域の子育て中の親子の育児支援を中心に地域支援事業として園全体で体制を整え地域に貢献できる活動が充実している
	内容	子育て中の親子の支援を中心に保育所体験として保育の参加や給食の試食会、栽培や収穫などの食育活動の参加、手作りおもちゃの体験会、親子のふれあい体操などを開催している。ふれあい体操はヨガを取り入れるなど様々な工夫が見られる。妊娠中の保護者には育児相談にも応じている。これらの活動は年3回以上実施され毎回3組から15組以上の参加者があり、保育所体験から入所に繋がる場合も多く、開催はインスタグラムやチラシ、ポスターなどで呼びかけている。また地域貢献活動の活性化のために企画立案、実施に向けてプロジェクトが組まれている。
2	タイトル	一人一人に平等で発達段階に応じた適切な援助ができるために、子どもが負担にならず安心して取り組めるために行事の見直しを行っている
	内容	子どもたちが楽しめることを大切に年齢に応じた行事のあり方について実施の有無、内容や回数について常に見直しを行っている。特に発表会などは保護者の期待と同時に子どもの緊張感や成長発達を考慮し子どもにとって大切なことについて保護者に説明することで中止し踏み切り理解が得られている。またクリスマスやハロウィンなどは国により文化の違いがあるため、内容や日程にも配慮されている。季節に合わせた伝統行事の大切さや親子で楽しめるスイカ割など一つ一つ子どもの姿に合わせて検討と見直しが職員間でなされている。
3	タイトル	保護者とのコミュニケーションや意見・意向を大切にして信頼関係を構築し、保護者の満足度を高めている
	内容	保護者と共に子育てしていくことを大切にしており、コミュニケーションを重視している。保護者からの相談にはその都度応じ、内容によっては時間を作り対応している。保護者とのコミュニケーションの時間を大切にしているため、園と家庭の子どもの様子をお互いに把握できており、子どもの状況や成長発達に合わせた保育実践につながっている。こうした取り組みの積み重ねにより保護者との信頼関係が築かれ、利用者調査のコメントからも挨拶や声掛け、子どもを大切にしてくれている、丁寧な対応など職員の対応、日常の保育などに対する評価も高い。
No.	今後の課題と思われる点	
1	タイトル	当園は小規模保育園のため転園はやむを得ないが、行事参加や転園先の園や保護者との連携など卒園後の支援やフォローの充実を望みたい
	内容	当園は保護者とのコミュニケーションができ信頼関係が築かれている様子が伺える園である。2歳児までの小規模園のため転園はやむを得ないが、連携園がないため、小規模認可園としての点数加算の措置は実施されつつ、転園に対する保護者の不安は大きいと考えられる。卒園する親子に対して、いつでも相談できる窓口の設置や園の行事への参加、転園先での子どもの状況についての園や担任同士の情報交換など卒園後の支援とフォローアップを進めることで、保護者が0歳から就学までを見通した子育てができる体制作りをされることを期待したい。
2	タイトル	運営に対するリスクマネジメントの強化と共に、園独自の要素を踏まえた事業継続計画(BCP)の運用に期待したい
	内容	運営に対するリスクマネジメントに向けて、子どもの命の安全保障を第一とし日々の保育での事故防止に主眼を置いている。自然大災害や深刻な事故に備え、事業継続計画を策定している。BCPは、生命・財産などを確保したうえで、事業を早期復旧し、平常時と同じように継続していくことが最大の目的となるため、園独自の要素を踏まえた運用にするとより一層良くなると思われる。机上訓練などから、BCPの理解を深め、有事の際に役立つ計画となるよう期待したい。また、昨今の大雨・集中豪雨などの異常気象に対する対策の再評価の検討に期待したい。